

樂翁公松平定信の蒐集に係はる大般若經

書誌

本經は樂翁松平定信の蒐集にかゝるものである。文政十年六百卷の完成を見たとき云はれるが、其の後民間に流出し、明治十八年内務省之を購入、太政官文庫に入り内閣文庫を経て明治二十四年圖書寮に引繼がれたものである。折帖仕立、十帖を一帙とし更紗紋様麻織物の帙に納め、六帙宛を漆塗げんどの箱十箱に收納されている。

料紙は深椽染又は黄染の楮紙、紙長不同、天地卷軸には改裝の際と思はれる切斷の跡も見られ、豎七寸五分―八寸四分、横二寸七分―三寸二分内外、天地欄高不同である。

寫經は平安朝期より江戸末期に至るもの四〇九卷、版經は鎌倉期より室町期の一八八卷、宋版二卷の計五九九卷、十數ヶ所の藏經で施者の不詳なものが多く、古く切り續ぎ補寫が行はれ原形の完全なものは少い。

寫經及び版經共、唐玄奘三藏の譯本を藍本とし毎卷末に「一校了」の墨記がある。寫經卷五、一四、一六、二八、三四二、三六〇の六卷、版經卷二五、二六、四五八、五六七の四卷は宋版による千字文序次がある。

蒐集

大窪太朗

蒐集は初め知己、藩友等からの寄贈或は報徳としての贈與が次第にその數を増すに及び、遂に大般若六百卷の完成を志すに至つた。受贈の數も積つたので石山寺及び伊豆般若院に乞ひ大量の寄贈を受けほど完成し、猶不足の卷は樂翁自ら筆を染め、又凌雲院の僧正、吉祥寺の仙洲和尚、靈岸寺長老院の攝興等の助勢を得たと云ふ。この經緯を「樂翁公舊弄大般若經目錄」に

わか老公、右を好みすたれたるをおこし給ふ御志せちにまし／＼ければ、をのつからその御名さへ世に高く聞へて、こゝかしこより行かふ藩友とち、これの御むくひ、かれの御いらへにとて古代のものくさ／＼奉りける、その中に佛經のたくひもありけり、しめてこの道を好み給ふにはあらねと、けふいにしへ悉筆のあとにかゝるものに多く残りぬればなり。年つもり行まゝに、をのつから大般若の數もつもり行けは、おなしくはその數にもみたまほしうなどの給ものから、先づ石山の僧正にしか／＼といひやりければ、いつの頃よりか本堂の天井の上にあけて、すとのすみかとなりしもの少からすとてまた參らせぬ、いまたらはぬを、伊豆の般若院にもかくといひやりければ是はた數多參らせたり、みなくさ／＼故よしある本にて打捨かたきか、日ことの務めいとまなきのみか、ちかき頃は御本社をはしめ修理に事しけくして心

ならずもやつれたるまゝにうちをきしか、かゝる御志のはとこそとゞくに
なきさなりけれとて數多まいらせたり、いつくより奉るも年ふりたればみ
な全きはすくなく、あるは卷のはしめはなく、あるは末つかた専ら残れるた
くひのみ多かりき、それさえつゝら御筆とらせ給ひ、ことゝくおきなひ給
ひ、二三字つゝ虫はゝみたる所、あるは末つかたにまた二三字つゝことゝ
に書加給ひぬ、また臺山の凌雲院の僧正、吉祥寺の隱居仙洲和尚、靈岸寺の
長老院大僧正綱後興などもかき加へ侍りぬ、僧正は御坊の惠恩院にありし時の事也、
仙洲はそ退隱して閑窓に筆をとり給り、さてや、五百卷にちかくなりしころ
その數にみちんとしたらはぬ五六卷みつかからかゝせ給ひぬ、撫々おほしめ
す所ありけんかし。かくて年へてことし文政十年全部六百卷かくるなし

蒐集の年次を詳にしないが、卷一九三が寛政十三年備後神宮寺より、卷
三九七中尊寺經が文化四年の受贈、卷一九二石山寺經は石山寺緣起の定
信の識語から考へて文政二年前後の贈であらう、最後の贈與と見られる
伊豆般若院經が文政二年表装されているから大勢文政二年頃までに略蒐
集が出来、十年にはその完成を見たものである。

「松平定信舊撰大般若經目錄」によるとその出所卷數は左の通りであ
る。但しこの目錄には出所卷數に紛淆があるらしくそのまゝ採録されて
ゐる。

石山寺	寫經二二一卷	和版二卷	般若院	寫經二二卷	和版一八六卷
高山寺	〃	三一卷	建治	〃	一七卷
大宮寺	〃	一五卷	池上寺	〃	一五卷
慈光寺	〃	五卷	神宮寺	〃	五卷
寂勝寺	〃	一一卷	仁治	〃	一卷

智積院	〃	一卷	後神宮寺	〃	一卷
多賀神社	〃	一卷	中尊寺	〃	一卷
尾羽寺	宋版	二卷	新福寺	寫經三一卷	
息栖明神	寫經	一卷	齋藤小平	〃	五七卷

計寫經四〇九卷 版經一九〇卷

之を要するに樂翁の考古趣味が集古十種の編輯に發展し、諸社寺の古美
術調査鑑賞から之の保存に盡力した事が蒐集への一端緒となつたと考
へられる。即ち慈光寺貞觀經、石山寺藏紫式部筆經はいづれも諸社寺藏
の經卷或は繪卷物の補修の報である。卷一九三末定信の識語に「凡古物
之存今皆可愛也 況文字乎 故珍藏之豈謂好佛而爲然哉云々」と、古物
を愛好しその保存に留意した事が窺はれる。

もと寫經は卷子仕立、版經は折本仕立であつたと思はれるが、文政二年
表具師石川魚水をして表装を加へ悉く折帖に改裝した。卷五七一裏表紙
に「文政二四月一日 金杉住石川魚水仕立 松平越中守様々被仰付候者
也」と、表装は出所刊寫の別なく、古裂地新調裂の金銀欄、緞子、錦、
繻子等百種を超える紋様裂を用ひ、只定信等の筆寫にかゝる十數卷は同
一紋様を用ひている。猶紙表装は僅に一卷鎌倉期と思はれる箱紙に蓮華
唐草模様を金泥したもの、表装裂地としても好資料である。

寫 經

寫經は貞觀十三年前上野國大目安倍小水麻呂が慈光寺に施入した四卷を
上限とし、中尊寺經、石山寺及び般若院經の一部が之につぎ、鎌倉期か
ら室町期に及ぶ石山經高山寺經が最も多く殆んど奥書もない、概ね庶人

の奉寫になるものと思はれる。下限は京都斎藤小平贈の元祿寫經五十五卷、更に樂翁等の補充新寫十四卷である。

この内年次施者等の明かなものは別表の如く貞觀より應安に至るもの、僧侶の手になるものは久安三年西觀、建曆から建保の慶慶、仁治三年憲信施入執筆明賢、正中二年澄詮、應安三年宗俊等、その他のものに小水麻呂、大神守次、寶治四年中原久直等の名が見える。年次のみのものは「建治四年正月十五日」とある建治經十七卷である。奥書もなく傳承のものに紫式部、北條時賴等がある。

校合墨記は仁治三年九月道快(卷一) 壽永二年六月義圓(卷六) 一校了覺鑊(卷三四) がある。

轉讀の記は仁治三年憲信經に天文十四年權少僧都歡昌 永正十一年法印有傳の名が見える。又加修復は文和三年桑門嘉尙(卷二三七) 明應七年本田福勝寺(卷七三) 明應七年乘賢(卷二八) 元祿十五年(卷二二) の記がある。

願文から見ると小水麻呂經、憲信經は普通經で鶏足寺慶辨經は三禮經とも見られ嚴肅な信仰書寫經である。猶同經は料紙を勝慶、慶秀等、筆墨を等政、幸榮、永賢等の結縁施入によつてゐる。その他は普通經と見られるが題跋もなく窺知る事が出来ない。

寫經年表(年次施者名あるもの)

貞觀	三、三	三	小水磨〔慈光寺〕	卷一〇九、四六七、五三三
久安	二、二	五	西觀〔伊豆〕	卷六
建曆	元、一二、二六	慶弁	〔大宮〕	卷八
建曆	三、二、一九	〃	〔大宮〕	卷一〇五

建曆	三、四、二〇	慶弁〔大宮〕	卷一七
建保	二、八、二〇	〃	〔〃〕
建保	三、九、二四	〃	〔〃〕
建保	四、一、一九	〃	〔〃〕
建保	四、二、二〇	〃	〔〃〕
建保	四、四、一〇	〃	〔〃〕
建保	四、六、一八	〃	〔〃〕
建保	四、八、二〇	〃	〔〃〕
建保	五、一、三	〃	〔〃〕
建保	五、七、二四	〃	〔〃〕
建保	六、六、二四	〃	〔〃〕
仁治	三、一、一三	憲信〔仁治〕	卷一
建治	四、一、一五	澄詮〔建治〕	卷二四
正中	二、三、一五	澄詮〔池上〕	卷二八
貞治	四、九、九	中原久直〔多賀〕	卷二九
應安	三、八、二一	宗俊〔備後〕	卷二二

版經

版經は一九〇卷この内鎌倉より室町期に至る和版一八八卷、宋版二卷である。

和版の内一八六卷は伊豆般若院藏、二卷は石山寺藏、宋版は下野國尾羽寺の舊藏にかゝるものである。

和版は春日版を主とし、比丘智感及び足利一門の勸進施入にかゝる刻記あるもの六七卷、無刊記一一九卷を數へる。無刊記中卷五七八は鎌倉期

建長頃の刊行と覺しく異版である。

卷九に「春日御社執行正預正四位下中臣連遠忠」卷五九八「願此刻彫功德善根 三寶哀愍 隨遂護念 良心無病 諸根明利 恒常勇猛 修習六度 念念増進 連至不退 決定當證 無上菩提 僧猷賢」卷五七九「佛子專心」といづれも春日版である。

卷一五に『參議左近衛中將源義詮』源氏女如春」大般若經一部六百卷爲宿願開板畢」文和二年九月廿二日」左馬頭源基氏』

卷二〇二、二〇五、二〇六、二〇九には貞治五年より七年に至るもので「惣奉行入別三百内大檀那」兵部大輔正五位下平朝臣氏重」と足利一門の開板施入になるものである。

智感版には延文五年から明德三年に至る年次が見られ「勸進沙門智感」「勸進比丘智感」の刻記があり、年次を缺くものもある。又基氏、氏重等足利一門及びその家臣の刻記は智感版に刻され同經に兩者の刻記がある。安房大山寺藏延文三年智感版には同文に貞治四年氏重の記がある。

と。
基氏の勸進には刻記あるものゝ外、卷五一三「左兵衛督源基氏花押」卷一〇二貞治三年智感版に「左兵衛督源朝臣基氏花押」と自署施入のものがある。

猶智感版には一色道範、町野信濃入道淨善、參河守氏宗、上相中務少輔沙彌禪助等數十人に及ぶ足利家臣の刻記がある。

室町期のは應永四、五年比丘法龜の勸進二卷、版式等からみて智感版の繼續勸進にかゝるものと思はれる。

宋版は開元禪寺版（卷五〇九）及び趙安國版（卷七九）の二卷、開元禪寺

版は一紙（二四行）の缺脱がある。和版中年次あるものを掲げると

版經年表（年次刻記あるもの）

文和 二、九、一二	智感 基氏等	卷 一五
延文 五、四、一五	智感 慶種等	卷 一八
延文 五、九	智感	卷 三〇
貞治 三、一〇	智感 基氏自署	卷 一〇二
貞治 三、一〇	沙彌覺惠等	卷 一〇三
貞治 四、二	智感	卷 一〇六
貞治 四、一〇、一	智感 基氏自署	卷 一一八
貞治 五、三	智感 氏重	卷 二〇五
貞治 五、四	智感 氏重	卷 二〇八
貞治 六、三	智感	卷 一四一
貞治 六、三	氏重等	卷 二〇二
貞治 六、六	智感	卷 二一〇
貞治 六、一〇		卷 一四〇
貞治 六、一二	智感	卷 一四四
貞治 七、三	智感 氏重	卷 二〇九
應安 元、八	智感 沙彌法松	卷 一五三
應安 元、一〇	智感	卷 一五七
應安 二、一二	智感	卷 一九四
應安 三、九	智感	卷 二二二
應安 三、一一	智感 沙彌希俊	卷 二二七
應安 三、一二	智感	卷 二二四
應安 四、	智感	卷 二三四

出所藏經概観

石山寺經 二二三卷

智足院尊賢僧正の贈る所、平安期より室町期に渉る寫經二二三卷、數種の筆跡からなる。刊本は智感版二卷である。

寫經は鎌倉から南北朝のものが多く間々室町期と思はれるものもあり、平安期のものは極めて少い。概して庶人の奉寫と見られ、文字も稚拙で卷首の謹書が次第に崩れ、卷軸の程は乱筆に終つてゐる。

紙長不同、料紙は深橡染の楮紙、烏絲欄も素雜で上下欄六寸七分―七寸位、一七字詰、年次名號等はなく數種の筆蹟が判別されるのみである。

卷一九二は紫式部筆と傳へられる平安期の書寫、卷末に

此卷者石山寺之藏、而寺僧所傳紫女之書也「予囑普依石山僧正之乞、補縁起所闕之二卷」僧正喜而贈古寫經二卷、此卷者即其一也」源旭峯識白河城主

と受贈の經緯を記す。

石山寺縁起文政二年十二月二十三日樂翁の識語によれば、樂翁は智足院尊賢僧正と親交があり、又谷文晁は田安家の繪師で殊に樂翁に愛用せられた。

偶々石山寺縁起卷六、七の二卷は飛鳥井雅章の詞書のみを存し圖を缺くので、文晁をして補寫せしめた事から尊賢は之を徳とし、寺傳の古寫經二卷を贈つたと云ふ。古經題跋に「大藏經全部寫本 紫式部眞蹟 書法秀潤 傳云經背書源氏物語・此本無」とある如く、紫式部と石山寺は縁故深い所だけにこの様な寺傳も多く存したものだと思はれる。

版經は卷一〇二貞治三年、卷二七八應安八年のいづれも智感版二卷、貞

應安五、五、一	智感	卷二四六
應安五、八	智感	卷二四七
應安六、一〇	智感 沙彌淨宥	卷二五八
應安七、一二	智感 沙彌貞圓	卷二七四
應安八、四	智感	卷二七八
永和元、一一	智感	卷二八六
永和二、六	智感	卷二九八
永和四、一二	智感 沙彌禪正	卷二六〇
康暦二、一	智感 淨善	卷三七〇
康暦三、二	智感 希廣	卷三六五
康暦三、四	智感	卷三六九
康暦	智感	卷三六三
永徳元、五	智感	卷一四六
永徳元、六	智感 從智禪尼	卷三七六
永徳元、七	智感	卷三七三
永徳元、一二	智感 沙彌等忠	卷三七九
永徳元、一二	智感 淨善	卷三八〇
永徳二、五	智感	卷三八六
永徳二、一〇	智感	卷三九三
永徳四、二	智感	卷四一四
至徳四、七	智感 平氏女大御前	卷四一六
明德三、二	智感 淨善	卷四一五
應永四、一〇	法龜	卷四三三
應永四、一〇	法龜	卷四四九
應永五、二	法龜	卷四五二

治版には「左兵衛督源朝臣基氏花押」と自署がある。この二巻は石山藏
 經ではなく、恐らく伊豆般若院藏經の紛入と考へられる。巻次を掲げる

と
 寫經

一〇七	一一〇	一一一	一一五	一一六(首缺)
一二一	一二二	一二三	一二四	一二五
一二六	一二七	一二八	一三〇	一三二
一三三	一三七	一三八(補寫)	一三九	一四二
一四三	一四五	一四七	一四八	一四九
一五〇	一五一	一五二	一五四	一五五(補寫)
一五六	一五九	一六〇	一六一	一六二
一六三	一六四	一六五	一六六	一六七
一六八	一七一	一七二	一七三	一七四
一七五	一七六	一七八	一七九	一八〇
一八二	一八三	一八五	一八七	一八八
一八九	一九二	一九六	一九九	二〇〇
二二四	二二五	二二六	二二七	二二八
二二九	二三一	二三二	二二三	二三四
二三八	二三九	二四〇	二四三	二四四

版經 卷一〇二
 般若院經 卷二七八
 二〇八卷

二四五	二四九(補寫)	二五〇	二五二	二五三
二五四	二五五	二五六	二五七	二五九
二六一	二六三	二六四	二六六	二六七
二六八	二七〇	二七六	二七八	二八九
二九一	二九二	二九四	二九五	二九六
二九九	三六二(補寫)	三七四	三七七	三七八
三八一	三八二	三八三	三八四	三八八
三八九	三九〇	三九一	三九四	三九六
三九八	四〇〇	四〇五	四〇六	四〇七
四〇九	四一一	四一八	四一九	四二一
四二八	四三〇(補寫)	四三五	四三七	四三八
四四四	四四五	四五〇	四五一	四五五
四五六	四六二	四六九	四七〇	四七一
四七二	四七三	四七四	四七八	四八〇
四八五	四八七	四八九	四九〇	五一二
五一四	五二一	五二二	五二三	五二五
五二七	五二八	五二九	五三〇	五三六
五三七	五三八	五四〇	五五二	五五七
五五八	五五九	五六一	五六二	五六三
五六四	五六五	五六六	五六八	五六九
五七〇	五九一	五九三	五九六	五九七
五九九				

伊豆般若院周道の贈る所と云ふ。鎌倉期より室町期に至る和版一八六卷、寫經は平安期より室町期のもの二二卷である。

和版は無刊記ものが多く春日版を主としている。年次刊記のあるものは文和二年より應永五年に至る、足利基氏等足利一門及び沙門智感等の開版にかゝるもの六七卷、無刊記本一一九卷である。

和版中最古と目される卷五七八は建長頃の刊と思はれ、天地欄界縁色摺り、書舛も他と異り文字は稍小さい、その他は南北朝以前の刊本で室町期のものは僅に二卷比丘法龜の勸進にかゝるものである。

刊記あるもの春日版に卷二〇二「春日御社執行正預正四位下中臣連遠忠」卷五七九「佛子専心」卷五九九「猷賢」の勸進三卷、智感勸進が最も多く、足利一門の施入は概ね智感勸進と同經に施入刻記がある。足利氏とその家臣には義詮、基氏、氏重、一色道範、同範氏伊豫守直氏等數十人の施者名がある。道範は代々足利の家臣で應永十一年には住吉社に紺紙金泥法華經八卷、般若經一卷、阿彌陀經一卷を施入している。智感は未詳であるが卷一四六に「智岩寺」の墨記、卷二一八、二一九に「智岩比丘智感遍募且越刊行」の刻記があり智岩寺の住侶かと考へられるが確證はない。

智感版中年次あるものは延文五年（卷三〇）を上限とし、明德三年（卷四三四）までを存するが首尾缺失のもの、無年次のものも存するので更に上下限が延長され少くとも四十年位に渉る刊行と思はれる。その後應永四、五年比丘法龜（卷四四九・四五二）の開版になるものは、その版式等からみて、法龜は智感とは同門乃至師弟關係の者であり、智感の意志をつぎ繼續刊行したものだと思はれる。

猶鶴岡八幡宮には文和二年基氏版、同智感版を、鎌倉圓覺寺に基氏版大般若を藏すと。又卷二〇二版心にある「菩薩戒尼妙阿」は江州寶光寺藏經にある「正應三年十一月廿二日爲悲母妙阿 勸進沙門信等」とある妙阿のことであらう。

これらの版本にも貼り繼ぎ補寫があり、補寫も刊行と同時代と思はれるものが多いが定信等の手になる補筆もある。併し刊本寫本共蟲損の甚しいものが多く、後世と思はれるなぞり筆の跡が見られ原本の面影を薄くしている。

寫經は平安期から室町期のもので殆んど奥書はなく僅に卷六に「久安二年二月五日 願主金剛佛子西觀書之 壽永二年六月十九日交了義圓」卷六〇〇「正長二年法印心秀」の二卷に奥書をみるのみである。心秀は鎌倉の學頭僧で屢伊豆へ來往したと云はれる。

般若院は走湯山と號し、もと密嚴院東明寺と稱した、鎌倉中期の住僧覺海は足利泰氏の男、頼氏の弟でその學德を稱された、源頼朝及び政子が住し、又足利尊氏の子竹若が居住した足利氏とは縁故深い寺である。

般若院經の卷次は

版經

二(補寫)	卷	三	卷	九	卷	一〇(補寫)	卷	一五(補寫)
一八(〃)	一九(補寫)	二一	二四	二五(〃)				
二六(〃)	三〇	三三(補寫)	三三(補寫)	三六				
三八(〃)	三九	四〇(〃)	四一	四三				
四四(〃)	四五	四六(〃)	五三(補寫)	五八				
六三(〃)	六四	六五(〃)	七一	八六				
八七	九〇(補寫)	九一	九三	一〇三				

一〇六	一一八	一四〇	一四一	一四四
一四六	一五三	一五七	一六九	一七〇(補寫)
一八六(補寫)	一九一(補寫)	一九四	一九五	一九八
二〇一	二〇二	二〇三(補寫)	二〇四	二〇五
二〇六	二〇八	二〇九	二一〇	二一一(補寫)
二一一	二一八	二一九	二二〇	二二三(〃)
二二四	二二七	二二八	二三〇(補寫)	二三四(〃)
二四六	二四七	二五八	二六二(〃)	二六九(〃)
二七〇	二七四	二八六	二八七(〃)	二九八
三四〇	三六三(補寫)	三六五	三六九	三七〇
三七一	三七三(〃)	三七六(補寫)	三七九	三八〇
三八六	三九二	三九三(〃)	三九九	四〇一(補寫)
四〇三(補寫)	四〇四(補寫)	四一三(〃)	四一四(補寫)	四一五
四一六	四一七	四二二	四二五	四二六
四二七	四二九	四三一	四三二(補寫)	四四三(補寫)
四四七(補寫)	四四八	四四九(補寫)	四五二	四五三
四五七	四五八	四五九	四七五	四七六
四七七	四七九	四八一	四八三	四八六
四八八	四九一	四九二	四九三	四九四
四九五	四九六	四九七	四九八(補寫)	四九九
五〇一(補寫)	五〇二	五〇三	五〇四	五〇五
五〇六(〃)	五〇七	五〇八	五一〇	五一一
五一三	五一五	五一六(補寫)	五一七	五一八
五一九	五二〇	五二四	五二六(補寫)	五三一

五三二	五三四	五三九	五四八	五四九
五五〇(補寫)	五五一	五五三	五五四	五五五(補寫)
五五六	五六〇	五六七	五七一	五七四
五七八(補寫)	五七九	五八〇	五九二	五九五(補寫)
五九八	六〇〇			
寫經	二三	六〇	七〇	一〇一
	一一九	一七〇	一九五	二一三
	二六五	二七三	三六六	三八七
	四六一	四六三	四六五	四八二
	五〇〇	五四一	五九四	

高山寺經 三二卷

那古寺の僧正戒猷の贈經、奥書等なく鎌倉期より南北朝期に至る奉寫經である。欄高六寸六分―七寸

卷二七七(補寫) 二七九 二八〇 二八一 二八二(補寫)

二八五	二九〇	二九七(補寫)	三六四	三六八(〃)
三七二	五四二	五四三	五四四	五四五(〃)
五四六	五四七	五七二	五七三	五七五
五七六	五七七	五八一	五八二	五八三
五八五	五八六	五八七	五八八	五八九
五九〇				

建治寫經 一七卷

欄高六寸六分―六寸八分、筆者を詳にしない。卷二四一に「建治四年正月十五日」の墨記があるのみで他の卷にはこの年次はないが同期のもの

である。卷七三に「明應七年^{午戌}九月仲旬加修理也 本田福勝寺常住」の記がある。

卷 七三 一〇八 一一二 一一四 一二〇

一二九 一三一 一三五 一三六 一五八

一七七 一九七 二二二 二二六 二三五

二四一

武藏國大宮寺經 一五卷

河越の住人米穀商磯田長兵衛の贈、下野國足利鶴足寺僧慶辨顯學房の奉寫になる、建暦元年より建保六年まで八ヶ年にわたる一筆經、每卷「持齋斷鹽酒言語、着淨衣、每文字南無尺迦牟尼佛唱、每行南無尺迦牟尼佛、南無須菩薩、南無十六善神三度禮拜一筆奉書寫、後依夢告每行加彌勒名號云々」と謹嚴な信仰書寫であり三禮經である。欄高六寸四分

卷 八 一〇五 一一七 一三四(補寫) 一二五

二九三 三七五 三八五 四〇二 四〇八

四四六 四六八 四八四 五三五 五八四

池上寺經 一五卷

丹波國船井郡羽部郷池上寺藏經、欄高六寸四分一七寸、卷二八に正中二年三月十五日澄詮が唐本を以て書寫の記がある。卷五、一四、一六に「贊」卷二八に「玄」の千字文序次がある、唐本は玄非三藏譯本で宋版を指すものと思はれる。卷二八に「右此御經修復之時依破損買繼者也」明應七年^{午戌} 願主人乘賢」の記がある。

卷 四 五 七 一一 一四

一六 一七 二〇 二七 二八

一九〇 二七一 二七二 二七五 二九五

慈光寺經 五卷

定信が武州比企郡河越慈光寺收藏古寫經の破損を惜んで之に表装を加へさせた報として寺主から贈られたものと云ふ。欄高六寸五分一六寸七分。卷八二に南北朝期の書寫で鹿島最勝寺經らしく奥書はないが目録の誤記かと思はれる。他の四卷は貞觀十三年前上野國大目安倍朝臣小水麻呂が慈光寺に奉納したもの、小水麻呂經と云はれるものである。卷四六四は首尾殆んどを逸して樂翁等の補寫にかゝり、卷一〇九、四六七、五三五は何れも首を缺いているが卷末に小水麻呂の跋がある。跋云

无災殃而不消无福樂而不成者般若之金言眞空之妙典被稱諸佛之父母聖賢之師範也 所以至誠奉寫大般若經一部六百卷 三世大覺十方賢聖咸共證明我現當之勝願必定成就 貞觀十三年^{歲次辛卯}三月三日 誓前上毛洲大目從六位下安倍朝臣小水麻呂

貞觀年間には大般若の崇拝が盛んで殊に宮中及び諸國國分寺等に書寫轉讀が行はれた、慈光寺の實錄によると元明天皇の和銅改元に際し上毛國多胡郡羊大夫に勅命あつて大般若を書寫せしめ慈光寺觀世音に納られた。羊はその賞として多胡郡、綠野郡、甘良郡の三百戸三郡を賜つたと云ふ。又この小水麻呂は羊大夫の末であると。因に慈光寺には同經百五十卷を現存する。

卷 八二 一〇九(補寫) 四六四(補寫) 四六七(補寫) 五三三(補寫)

神宮寺經 五卷

丹波國桑田郡田能村神宮寺の藏經、龜山の大夫松平帶刀の贈る所、同寺には仁安、承久、正中等の年記あるものがありいづれもその頃のものと云

ふ、欄高六寸四分―六寸六分、鎌倉期の寫經で毎卷「文和三年極月廿四日 修復願主嘉尙」の墨記がある。卷三〇〇は「大神守次紀氏」とあつて同人の筆である。

卷二二七 二四二 三〇〇 三四一 三六一

寂勝寺經 一卷

奥州白河鹿島神社別當寂勝寺所藏三十五卷之内十三卷を贈られたと云ふ。欄高六寸八分、卷二二卷軸に「應安三年庚戌八月二十一日 金剛佛子宗俊」(別巻元祿十五年五月十二日加修補畢)の記がある。他の卷は奥書等ないがいづれも同期のもので料紙筆蹟も同様である。十三卷の寄贈といふが目録では十一卷を數へる。卷八二は目録では慈光寺經とあるが本經の紛入したもので、他の一卷も何れにか紛入しているものと思はれる。

卷 一二二 三七(補寫) 四二 五一 八〇

八一 八三(補寫) 八五 一〇四(補寫) 一一三

・三六〇(補寫)

仁治經 一卷

卷一、欄高六寸六分、仁治三年正月十三日 金剛佛子憲信が尼寺藥師御堂如來に施入した大般若一部之内、執筆は建穗寺明賢、同年九月三日道快が交了している。その後永正十一年法印有傳が久能寺に於て、又天文十四年權少僧都數昌の轉讀墨記がある。首三八行補寫、朱句點送り假名がある。

尙憲信が有度八幡に施入した仁治元年八月の五部大乘經、延應二年八月の大般若經が久原文庫其の他に現存する。

智積院經 卷三四 一卷

山城國智積院藏、覺鑱上人筆と傳へ那古寺の戒猷僧正の贈經、卷末に「覺鑱」の墨記がある。欄高六寸五分、この卷は五九九卷中唯一の紙表装で紺紙に蓮華唐草を金泥した鎌倉期のものである。覺鑱は肥前の人、正覺房、又本願上人と稱し高野傳法院の阿闍梨、康治二年圓明寺に寂四九備後國神宮寺經 卷一九三 一卷

欄高六寸七分、補寫がある。卷末に「爲散位安那定親女二親」の墨記がある。嘉禎中安那ム者が神宮寺に奉施したもので、寺僧がその散逸を惜んで贈つたものと云ふ。定信の跋に

此爲一切經殘編嘉禎中安那ム者書一切經以納神宮寺 其距今六百年 朽蠹已多寺僧復護惜恐其散逸無遺也 頃有以此一卷贈者凡古物之存今皆可愛况文字乎 故珍而藏之豈好佛而爲然哉 神宮寺今在備後八幡村是也

寬政十三年正月廿七日識集古堂印

安那定親は古經題跋に武州綠山猶龍窟藏阿彌陀經に「嘉禎二年丙申七月十六日始之 同歲八月十七日畢 願主安那定親」と、同人であらう。

近江國多賀神社經 卷二九 一卷

欄高六寸六分、卷末に「多賀大社」と上部を蟲損している。又「貞治第四乙丑九月重陽日 願主左近將監中原久直」執筆桑門正琢」とあり、更に「至享和三年四百四十二年」の加筆がある。

中尊寺經 卷三九七 一卷

陸中平泉中尊寺藏經、文化四年田井元陳が南部よりの歸途、寺僧に乞ひ求めて贈る所と云ふ。欄高六寸三分、紺紙金泥、烏絲欄銀、奥書はない。

尾羽寺經 二卷

卷七九は欄高七寸八分、宋趙安國版、首尾に「荒」の千字文序次がある。卷末に「下野國尾羽寺」の長方黒印を捺し、「建安翁遂刊」の刻記がある。

卷五〇九は欄高八寸二分、開元禪寺版、第十紙二十四行の缺落がある。

版心に「安撫使賈侍郎捨 听 賈侍郎捨 文」等、卷末に「陳登爲妣高六娘捨衣彫此板」の刻記があり、卷軸に江戸期の加筆で毗沙門天王經の題跋がある。

尙尾羽寺には趙安國版大般若經六百卷を藏すと。

右二卷は圖書寮藏の石清水八幡宮及び西大寺舊藏大般若經と同本である。

新福寺經 一四卷

相州新福寺經とあるが、いづれも江戸末期の書寫經、樂翁の自寫も交り、行草跡の走り書きで恐らく凌雲院僧正、吉祥寺仙洲和尚、靈岸寺長老院攝與等の助筆と思はれる。卷四五二、四六〇の卷末には「桑名少將樂翁筆」と自署がある。

卷 四七 一八一 一八四 二五一 二八三

二八四 二八五 四一二 四二〇 四二三

四二四 四三六 四五四 四六〇

常陸國息栖明神經 卷四一〇 一卷

寢明寺時頼が息栖明神へ奉納したもので、建長六年發願正嘉元年結願と云はれるが奥書もない。欄高六寸五分鎌倉期の書寫である。

齋藤小平贈經 五七卷

京師の人齋藤小平の贈る所と云ふ。元祿年間ある僧の發願で堂上に書寫

を乞ふたが未完であつたものと云はれる。この分にも石山寺經の紛入と思はれる卷三〇二、三三〇の二卷があり南北朝期の書寫である。目錄の誤記であらう。

卷三〇一—三三九 三四一 三四三—三五九

奥書刻記本文

五九九卷の内、年次奥書刻記あるものを、卷次に随つて録した。卷次下段の略記號は

伊豆般若院	石山寺	高高山寺	建治建治寫
大宮大宮寺	池上寺	慈光寺	神丹波神宮寺
鹿島別當嚴勝寺	仁治仁治寫	智智積院	備備神宮寺
多賀神社	尾羽寺	新福寺	息栖明神

卷一 寫經 欄高六、六寸（仁治）

仁治三年大正正月十三日書寫畢

執筆建穂寺住人明賢

右書寫意趣者爲金剛佛子憲信息災 安穩福壽增長也

大願主惣社并國分寺別當金剛佛子憲信

尼寺御堂藥師如來 奉施入大般若一部

仁治三年大正九月 日一了道快

（別筆）權少僧都歡昌

當經眞讀二世大願吉祥成就祈所天文乙巳十月

（別筆）法印有傳

於久能寺令眞讀開白奉國家安全寺中 繁昌精誠所也 永正十一年甲戌四月廿七始之

卷六 寫經 欄高六、七寸(伊)

久安二年二月五日願主金剛佛子西觀書之

壽永二年六月十九日交了 義円

卷八 寫經 欄高六、八寸(大宮)

建曆元年大歲十二月廿六日 下野國足利鶏足寺書寫了取筆 慶弁侍齋斷塩斷

婁酒斷言語 清淨衣南无尺迦牟尼佛 南无須菩提南无十六善神王 每行三度禮

拜一筆書寫 志者爲父 母師長法界衆生成佛得道无他念書寫也 料紙結緣慶

秀隆慶坊

卷九和版(補寫) 行高六、七分(伊)

春日御社執行正預正四位下中臣連遠忠

卷一〇和版(補寫) 行高六、八分(伊)

勸進沙門智感

卷一五和版(補寫) 行高六、八寸(伊)

勸進沙門智感

源金王丸 源壽丸 稻埵比丘良守 菩薩戒明清 平德壽丸 高

石次郎入道宗安 沙彌定放 相馬掃部助貞重 爲慈禪禪門沙彌妙釋

中村伊豆入道光阿 嶽別當僧都賢秀 前安藝守朝里 長井修理亮宏永

居士 菩薩戒女淨桂 沙彌心宗(以上版心)

參禪左近衛中將源義詮 源氏女如春

大般若經一部六百卷 爲宿願開板畢

文和二年九月廿二日 左馬頭源基氏

卷一六 寫(贊)字 欄高六、七寸(池上)

卷一八和版(補寫) 行高六、七寸(伊)

勸進沙門智感

菩薩戒尼慶種 藤原元茂 沙彌道円 三善直康 左衛門尉重茂

爲父母藤原廣常 爲父母源榮忠 沙彌道性 源信行 爲父母右衛門

尉直衡 爲父母沙彌道朝(以上版心)

延文五年四月十五日 勸進沙門智感

卷一九和版(補寫) 行高六、七寸(伊)

勸進沙門智感

(以下) 上總守源範氏 伊與守源直氏

左衛門尉國重 僧實藏

尾張守藤原範藤 爲證道妙榮

明壽 如春 希草 清本 光智 覺圓

卷二八 寫(文)字 欄高七寸(池上)

正中二年壬三月十五日於丹波國船井郡刑部鄉 池上寺以唐本令書寫畢 執筆

澄詮

右此御經修復之時依破損買繼者也

明應七年戊辰 願主人乘賢

卷二九 寫 欄高六、六寸(多)

多賀大社

貞治第四巳九月重陽日願主左近將監中原久直

執筆桑門正琢

(別筆) 至享和三年四百四十二年

卷三〇 和版 (伊)

勸進沙門智感 延文五庚子九月 日

卷三四 寫 欄高六、五寸(智)

一校了 覺綴

卷七三 寫 欄高六、六寸(建)

于時明應七年^{戊午}九月仲旬加修理也

本田福勝寺常住

卷七九 宋版(荒)字 欄高七、八寸(尾)

「下野國尾羽寺」長方黑印

「建安翁遂刊」

卷一〇二 和版 行高六、八寸(石)

比丘智感 貞治三^{甲辰}十月 日

左兵衛督源朝臣基氏 花押

卷一〇三 和版 行高六、八寸(伊)

貞治三^{甲辰}十月 沙彌覺惠「菩薩戒尼今阿 伊丹見專阿

卷一〇五 寫 欄高六、五寸(大宮)

建曆三年^{大歲}二月十九日 下野國足利鶴足寺書了取筆慶弁持齊斷塩「煙酒言語

着淨衣每文字南无尺迦牟尼佛南无須菩薩南无十六善神三度禮拜一筆奉書寫志者

无他念爲父母師「長一切衆生成佛得道也 料紙勝慶智光房 墨筆祐明珠房

卷一〇六 和版 行高六、七寸(伊)

比丘智感 貞治四^{乙丑}二月 日

卷一〇九 寫(補寫) 欄高六、七寸(慈)

无ノ映而不消无福樂而不成去般若之念「言眞空之妙典被稱諸佛之父母聖賢之

師範也」所以至誠奉寫大般若經一部六百卷三世大覺十方賢聖咸共證明我現當

之勝願必定成就 貞觀十三年^{歲次}三月三日「誓前上毛洲權大目從六位下安倍朝

臣小水磨

卷一一七 寫 欄高六、四寸(大宮)

建曆三年^{大歲}四月廿日下野國足利鶴足寺書了 取筆慶弁持齊「斷塩煙酒言語別

道場着淨衣每文字南无尺迦牟尼佛唱每行南无尺迦「牟尼佛南无須菩薩南无十六善神三度禮拜一筆奉書寫 志者无他念偏爲父」母師善法界衆生成佛得道也 料

紙勝慶智光房墨俊源釋道坊

卷一一八 和版 行高六、七寸(伊)

智感 貞治四年十月一日 源松鶴丸 左兵衛督源基氏 花押

卷一四〇 和版 行高六、八寸(伊)

貞治六^{丁未}十月 日

卷一四一 和版 行高六、八寸(伊)

比丘智感 貞治六^{丁未}三月 日

卷一四四 和版 行高六、八寸(伊)

比丘智感 貞治六年^{丁未}十二月 日

卷一四六 和版 行高六、四寸(伊)

勸進沙門智感 化縁比丘智感 永德元^{戊午}五月 日 「智岩寺」(墨記)

卷一五三 和版 行高六、八寸(伊)

沙彌法松 應安元^{戊申}八月 日 比丘智感

卷一五七 和版 行高七寸 (伊)

應安元^{戊申}十月 日 勸進智感

卷一六九 和版 行高六、八寸(伊)

化縁比丘智感

卷一八六 和版(補寫) 行高六、七寸(伊)

化縁比丘智感

卷一九二 寫 欄高七寸(石)

此卷者石山寺之藏而寺僧所傳紫女之書也「予瞻音依石山僧正之乞補縁起所闕之二卷」僧正書而贈古寫經二卷 此卷者即其一也

卷一九三 寫 欄高六、七寸(伊)

爲散位安那定親女共二親」此爲一切經殘編嘉禎一中安那者書一切經」以納神宮寺 其距今六百年朽蠹已多寺僧復護惜恐其散逸無遺也 頃有以此一卷贈者」凡古物之存今皆可愛」況文字乎故珍而藏之」豈謂好佛而爲然哉 神」宮寺今在備後八幡村」是也

寬政十三年正月廿七日識 集部 臺印

卷一九四 和版 行高六、七寸(伊)

應安二己十二月 日」化緣比丘智感

卷一九八 和版 行高六、七寸(伊)

化緣比丘智感 (版心) 沙弥希俊

卷二〇二 和版 行高六、五寸(伊)

平氏女 平千代駒丸 平春駒丸 菩薩戒尼妙阿(版心)

物奉行人別三百內大檀那」正五位下兵部大輔平朝臣氏重」

貞治六年 未三月日

卷二〇五 和版 行高六、七寸(伊)

正五位下行兵部大輔平氏重 平氏女 千代駒丸(版心)

物奉行人別三百內大檀那」兵部大輔正五位下平朝臣氏重」

貞治五年 丙三月日

卷二〇六 和版 行高六、七寸(伊)

勸進比丘智感 (版心) 兵部大輔正五位下平氏重

卷二〇八 和版 行高六、七寸(伊)

比丘智感」 物奉行人別三百內大檀那」兵部大輔正五位下平朝臣氏重」 貞治五年 丙四月 日

卷二〇九 和版 行高六、七寸(伊)

比丘智感」 物奉行人別三百內大檀那」 兵部大輔正五位下平朝臣氏重」

貞治七年 丙三月 日

卷二一〇 和版 行高六、七寸(伊)

化緣比丘智感」 貞治六丁六月 日

卷二一一 和版(補寫) 行高六、七寸(伊)

比丘智感」 (版心) 平千代駒 菩薩戒尼術智

卷二一二 和版 行高六、七寸(伊)

化緣比丘智感

卷二一八 和版 行高六、七寸(伊)

智岩比丘智感」 遍募且越刊行

卷二一九 和版 行高六、七寸(伊)

智岩比丘智感」 遍募且越刊行

卷二二〇 和版 行高六、七寸(伊)

化主比丘智感命工板行

卷二二二 和版(補寫) 行高六、七寸(伊)

應安三年 庚九月 日」比丘智感

卷二二四 和版 行高六、七寸(伊)

應安三 庚十二月 日」比丘智感

卷二二五 寫(補寫) 欄高六、四寸(大宮)

建保二年 甲戌八月廿日下野國足利錫足寺書了 執筆慶弁經學房 持齋入道場清淨衣 斷淫言填酒等 每文字南无尺迦牟尼佛吹 每行南无尺迦牟尼佛南无須菩薩南无十六善神三度禮拜一筆奉書寫 志者无他念爲父母師長法界衆生平等利益也料紙行賢行殿房 墨俊源禪道房 筆永堅寂林房

卷二二七 和版 行高六、七寸(伊)

沙弥希俊 應安三年十一月 日「勸進比丘智感

卷二二八 和版 行高六、七寸(伊)

沙弥法松「化縁比丘智感

卷二三四 和版(補寫) 行高六、六寸(伊)

應安第四「」 化縁「」

卷二三七 寫 行高六、六寸(伊)

文和三年卯極月廿四日修復願主案門嘉尙

卷二四一 寫 欄高六、六寸(建治)

建治四年正月十五日「(別筆)奥州仙臺菊水山釋雄眞武藏郡谷中村於金輪寺爲

宿願菩提之書之末

卷二四二 寫 欄高六、四寸(神宮)

文和三年卯臘月廿四日 一校了

卷二四六 和版 行高六、七寸(伊)

應安第五壬子五月一日「願主比丘智感

卷二四七 和版 行高六、八寸(伊)

應安第五壬子八月 日「化縁比丘智感

卷二四八 和版 行高六、七寸(伊)

應安第六癸丑十月 日「化縁比丘智感

卷二六〇 和版 行高六、七寸(伊)

築道源義宥 沙弥禪正 菩薩戒尼了義

永和四年十二月 日「化縁比丘智感

卷二六二 和版 行高六、七寸(伊)

沙弥及政

卷二六九 和版(補寫) 行高六、六寸(伊)

沙弥禪正

卷二七四 和版 行高六、七寸(伊)

沙弥貞圓 應安七年十二月 日「化縁比丘智感

卷二七八 和版 行高六、七寸(石)

應安八卯四月 日「化縁比丘智感

卷二八六 和版 行高六、七寸(伊)

永和元年卯十一月 日「化縁比丘智感

卷二九三 寫 欄高六、四寸(大宮)

建保四年歲次丙子四月十日於下野國足利鷄足寺慶弁顯學房「持齋入道場蕭淨衣

斷難言塩酒等 每文字南无尺迦牟尼佛唱」 每行南无尺迦牟尼須菩薩南无十六

善神三度禮拜一筆奉書」寫 志者偏爲父母師長一切衆生佛得道也 後每行加弥

勒寶」號唱依夢告 料紙大施主勝慶智吉房阿闍梨

卷二九八 和版 行高六、七寸(伊)

永和二年丙辰六月 日「化縁比丘智感

卷三〇〇 寫 欄高六、六寸(神宮)

大神守次紀氏「文和三年卯臘月廿四日修復願主嘉尙」行事僧

朝刑部允沙弥是法

卷三四〇 和版 行高六、七寸(伊)

沙弥道覺

卷三四二 寫 (贊) 字行高六、五寸(神宮)

文和三年卯臘月廿四日修復願主嘉尙

卷三六三 和版(補寫) 行高六、七寸(伊)

化縁比丘智感」 康曆

卷三六五 和版 行高六、七寸（伊）

壹岐彈正大夫入道希廣「化緣比丘智感」康曆三辛二月 日

卷三六九 和版 行高六、七寸（伊）

康曆三辛四月 日「化緣比丘智感」

卷三七〇 和版 行高六、七寸（伊）

町野信濃入道淨善 上相中務少輔沙彌禪助（以上版心）「化緣比丘智感」康曆二辛正月 日

正月 日

卷三七一 和版 行高六、七寸（伊）

沙彌淨善 尼眞淨 町野近江守法名源城 參河守平朝臣氏宗

卷三七三 和版 行高六、七寸（伊）

「化緣比丘智感」永德元年七月 日

卷三七五 寫 欄高六、四寸（大宮）

建保三年乙亥九月廿四日下野國足利鷄足寺慶弁顯學房押花持齋入道場清淨衣

斷難言塩酒等 每文字南无尺迦牟尼佛唱 每行南无尺迦牟尼佛 南无須菩薩

南无十六善神三度禮拜一筆奉書寫 志者偏爲父母師長一切衆生成佛得道也 後

依夢告每行加彌勒名號唱 料紙行賢行殿房 筆永賢寂林房

卷三七六 和版（補寫）行高六、七寸（伊）

從智禪尼 化緣比丘智感「永德元年辛酉六月 日

卷三七九 和版 行高六、七寸（伊）

沙彌等忠 化緣比丘智感「永德元年十月 日

卷三八〇 和版 行高六、七寸（伊）

町野信濃入道淨善 化緣比丘智感「永德元年十二月 日

卷三八五 寫 欄高六、四寸（大宮）

建保四年歲次正月十九日於下野國足利鷄足寺慶弁顯學房押花持齋入道場清淨衣

斷難言塩酒等 每文字南无尺迦牟尼佛唱 每行南无尺迦牟尼佛南无須菩薩南无

十六善神三度禮拜一筆奉書寫 志者偏爲父母師長法界衆生成佛得道也 後依

夢告每行加彌勒名號唱 料紙大施主勝慶智光房阿闍梨

卷三八六 和版 行高六、七寸（伊）

化緣比丘智感「永德二戊五月 日

卷三九二 和版 行高六、七寸（伊）

化緣比丘智感「永德二戊七月 日

卷三九三 和版（補寫）行高六、七寸（伊）

化緣比丘智感「永德二十月 日

卷三九九 和版 行高六、七寸（伊）

化緣比丘智感「永德三二月 日

卷四〇二 寫 欄高六、四寸（大宮）

建保四年歲次二月廿日於下野國足利鷄足寺慶弁顯學房押花持齋入道場清淨衣

斷難言塩酒等 每文字南无尺迦牟尼佛唱 每行南无尺迦牟尼佛南无須菩薩南

无十六善神三度禮拜一筆奉書寫 志者偏爲父母師長法界衆生成佛得道也 後

依夢告每行加彌勒名號唱 料紙大施主勝慶智光房阿闍梨

卷四〇八 寫 欄高六、四寸（大宮）

建保四年歲次四月十日於下野國足利鷄足寺慶弁顯學房押花持齋入道場清淨衣

斷難言塩酒等 每文字南无尺迦牟尼佛唱 每行南无尺迦牟尼佛南无須菩薩南

无十六善神三度禮拜一筆奉書寫 志者偏爲父母師長一切衆生成佛得道也 後

每行加彌勒寶號唱依夢告 料紙大施主勝慶智光房阿闍梨

卷四一四 和版（補寫）行高六、七寸（伊）

化緣比丘智感「永德三癸十一月 日

卷四一五 和版 行高六、六寸（伊）

平氏女大御前 化緣比丘智感」至德四年七月 日

卷四一六 和版 行高六、六寸(伊)

化緣比丘智感」永德第四二月 日

卷四一七 和版 行高六、六寸(伊)

化緣比丘智感」永德第四卯月 日

卷四三四 和版 行高六、八寸(伊)

脊沙彌淨善 化緣比丘智感」明德三 二月 日

卷四四六 寫 欄高六、四寸(大宮)

建保四年歲次丙子潤六月十八日於下野國足利鷄足寺慶弁顯學房押花持齋入道場蕭

淨」衣 斷雜言塩酒等 每文字南无尺迦牟尼佛唱 每行南无尺迦牟尼佛南无須

菩薩南无」十六善神三度禮拜一筆奉書寫 志者偏爲父母師長一切衆生成佛得道

也後」依夢告每行加彌勒名號唱 料紙幸榮淨忍房 墨同

卷四四九 和版 行高六、六寸(伊)

應永四丁丑十月 日 化緣比丘法龜

卷四五二 和版 行高六、七寸(伊)

應永五年二月 日 化緣比丘法龜

卷四五四 寫 行高六、五寸(新福)

桑名少將樂翁筆

卷四六〇 寫 行高六、四寸(新福)

桑名少將樂翁筆

卷四六七 寫(補寫)欄高六、六寸(慈)

無灾殃而不消無福樂而」不成者般若之金言眞空之」妙典被稱諸佛之父母聖」賢

之師範也 取以至誠奉」寫大般若經一部六百卷」三世大覺十方賢聖咸共證明」

我現當之勝願必定成熟」貞觀十三年歲次辛卯三月三日」檀主上野國前權大目從六」

位下安倍朝臣小水麻呂

卷四六八 寫 欄高六、四寸(大宮)

建保四年歲次丁丑八月廿日下野國」入道場蕭」衣 斷」牟尺迦牟

得道也 後依夢告每行加彌勒名號」料紙勝慶」房阿闍梨 墨宮主氏

卷四八四 寫 欄高六、四寸(大宮)

建保五年歲次丁丑正月十三日於下野國足利鷄足寺慶弁顯學房押花持齋入道

衣 斷雜言塩酒」迦牟尼佛唱 每行南无尺迦牟尼佛南无須菩薩南无」

十六善神三禮一筆奉書寫 志者偏爲父母師長一切衆生成佛得道也口後依夢告每

行」加彌勒名號唱 料紙勝慶智光房阿闍梨 墨宮主氏 筆永賢寂林房

卷五〇九 宋版(巨)字 欄高八寸二分(尾)

安撫使賈侍郎捨 听 賈侍郎捨 文 保 陳用 役 未 求 志 王申 江昌

陳登爲此高六嫁捨衣彫此板」

福州開元禪寺住持僧法賜紫慈通大師了一謹募衆緣恭爲今上皇帝祝延聖壽文武官

僚資崇祿位圓成雕造毗盧大藏經板一副昔紹興戊辰閏八月日

右三行毗沙門天王經卷首所題

卷五一三 和版 行高六、六寸(伊)

左兵衛督源基氏押花

卷五三三 寫(補寫)區高六、七寸(慈)

无灾殃而不消无福樂而不成者般若之金言眞空之妙典被稱諸佛之父母賢聖之

師範也所以至誠奉」寫大般若經一部六百卷 三世大覺十」方賢聖咸共證明我現

當之勝願」必定成就 貞觀十三年歲次辛卯三月三日前」上野大目從六位下安倍朝臣

小水麻呂

卷五三五 寫 欄高六、四寸(大宮)

建保五年^{歲次丁丑}七月廿四日於下野國足利鷄足寺慶弁顯學房^{持齋入道場}著淨衣
斷雜言塩酒等每文字南无尺迦牟尼佛」唱每行南无尺迦牟尼佛南无須菩薩南无十
六善神三禮一筆奉書寫志者偏爲父母師長一切衆生成佛得道也後依夢告每行加」
彌勒名號唱 藤原明忠并

卷五六七 和版(果)字 行高六、七寸(伊)

文政二四月一日金杉住 石川魚水仕立 松平越中守様被仰付候者也

卷五七八 版(補寫)古假名 欄高六、五寸(伊)

卷五七九 和版 行高六、八寸(伊)

佛子專心

卷五八四 寫 欄高六、四寸(大宮)

建保六年^{歲次戊寅}六月廿四日於下野國足利鷄足寺慶弁顯學房^{持齋入道場}著淨
衣斷雜言塩酒等每文字南无尺迦牟尼佛唱每行南无尺迦牟尼佛南无」須菩薩南无
十六善神三禮一筆奉書寫志者爲父母師長一切衆生成佛得道也」後依夢告每行加
彌勒名號唱墨鷄足寺政筆永賢寂林房一硯大

卷五九八 和版 行高六、七寸(伊)

願此刻彫 功德善根 三寶哀慙 隨遂護念 良心無病 諸根明利 恒常勇猛
修習六度 念念增進 速至不退 決定當證 無上菩提

僧猷賢

卷六〇〇 和版 行高六、七寸(伊)

正長二年十月廿九日法印心秀